

## 第5回いしかわの森づくり検討委員会議事要旨

### < 第4回いしかわの森づくり検討委員会の要旨について >

特になし

### < いしかわの森づくり検討委員会中間とりまとめ（素案）について >

（梶委員）

私どもの自治体では、漁業の振興につながる取り組みとして子供達と広葉樹を植栽しており、中間とりまとめの中にも、森林と海や漁業との関わり合いを記述してもらいたい。

（森 森林管理課長）

中間とりまとめの中に、その旨を記述していきたい。

（米谷委員）

手入れがされていない森林2万9千haのうち水源地域の面積はどれくらいあるのか。

（畑担当課長）

水源地域の森林面積は1万ha程度。

（大西委員）

水源地域とは、具体的にどこをさすのか。

（森 森林管理課長）

主要なダムまたは水道取水源の上流域にある森林。

（西村委員）

5ページに「税の検討を行うことが適当と考えられる」と書いてあるが、今後、この委員会ではどのように検討していくことになるのか。

（河田農林水産部長）

委員会での了解が得られたならば、税の専門部会を立ち上げて、検討してまいりたいと考えている。

(西村委員)

4ページの県民意識調査の記述の中で、協力したいと考えている費用負担額の割合が、たとえば「年間1000円程度」が上段では約50%、下段では7割弱と数字が異なっているのはなぜか。

(畑担当課長)

下段の「年間1000円程度」の割合の中には、「2000円程度」の割合も含まれており、誤解を招かないように記述を改めたい。

(西村委員)

金沢市でも議会で森林環境税が話題になり、市長がそういうことも検討していくことが必要と言っているようだが、県との整合性はどうなるのか。

(河田農林水産部長)

委員会で税を検討することを本日初めて資料に提示したが、今後、金沢市や他の市町村に対しても説明し、整合を取っていきたい。

(梶委員)

輪島市では、河川の伏流水を飲料水として利用しているが、それらの上流域も水源地域となるのか。

(森 森林管理課長)

水道取水源や簡易水道の上流域が対象であり、そのようなところも含まれる。

(大西委員)

最終的に財源は税金ということになると思うが、県民意識調査では、森林の手入れが不足している現状についてわからない人が約4割おり、新聞等で広く県民に知らせることが重要である。

(森 森林管理課長)

県民に対して理解を深めるように努めてまいりたい。

(米谷委員)

財源の確保が一番問題だと思うが。

(河田農林水産部長)

財源としては、現行制度でなかなか整備が進まない部分を確保していきたい。

(梶委員)

仮に新たな財源を創設しても、その用途を針葉樹の整備だけに限定せず、広葉樹との関わりを持たすことも重要ではないのか。

(森 森林管理課長)

強度の間伐を実施し混交林化を進めることによって、広葉樹の導入も図っていきたいと考えている。

(木場委員)

能登では小規模の森林所有者が多く、アテを伐採してもその後植栽せずに放置する傾向にあるが、その対策について何か考えているのか。

(畑担当課長)

他県でも同様の事例があるので、参考に考えたい。

(梶委員)

輪島市では、コナラなどの広葉樹を植栽しているが、助成制度があるのか。広葉樹を植栽することで季節感を出すことも重要。

(森 森林管理課長)

コナラやケヤキなどの広葉樹でも造林補助制度がある。

(石倉委員)

山の担い手などの林業者が、持続的な林業経営をできるような施策が必要ではないのか。

(森 森林管理課長)

林業労働対策基金による支援などの担い手対策の充実に努めていきたい。

(米谷委員)

林業就業者数が900人で推移しているが、新制度ができた場合に対応するための労働力に不足はないのか。

(森 森林管理課長)

不足しないと考えている。

(丸山委員長)

本日のまとめとして、素案について委員会としての了解が得られたので次回の委員会で中間のとりまとめを行うこと、今後、当委員会に税制度の検討を行う部会を設け検討していくことの2点を結論としたい。